橋紫光先生、

挨拶後、

支部

長

Ш

浦

碧

伊藤昌石先生、

法人中部

日本書道会一

川浦碧濤先生は、 感謝のご挨拶を、

熱い決意 新支部長

永清石先生、

まして、

図らずも支部長の

就任をいただき、また支部 次長に於いては村田光柊先

会長には田代春苑先生に御

幸いにも、一宮書道連盟

覚悟でございます。

杯勉強をさせていただく 職責を全う出来るよう力 教導を仰ぎ、一

歩一歩着実

知識経験豊富な諸先生のご 相談役の先生方をはじめ、

一十八年度支部集会に於き

去る二月五日開催の平成

重責は小生、

器に有らずと

鷲野紫篁先生、吉田桃

前支部長岩田

駆け

巡るも拝命と存じ、

花先生。 生

連盟副会長には

村

は見る事

が

出来ない

細

じました。

聴講者

*T*i.

般聴講者十

应

名

1指名を受けました。 この

公益

支部集会・ 支部長 に川浦 交流 碧濤

支部次長

吉

田 生

桃

永清石先生、

関根玉振先生

には引続きご臨席を賜り、

先

御

就 花 任

神社参集殿に会場を移し、

午後六時からは、

ご来賓の伊藤昌石先生、

· 会 場 時 平 真清田神社参集殿(交流会)一宮スポーツ文化センター平成二十九年二月五日(日) (支部: 集会)

▼

席を賜り開催されました。 祈りし、黙祷を捧げました。 髙木渓川先生のご冥福をお れました佐野桃子先生、 務局長関根玉振先生にご臨 支部長岩田澗流先生のご 議事に先立ち、ご逝去さ 集会が、本部より理事長 一十八年度公益社団 議長に木戸竹葉先 佐々清香先生、 副理事長兼事 副理事長松 宮支 船 され、 に副理事長松永清石先生に 拍手が起こりました。 ると、期待を寄せた満場の 濤先生に。」とご報告があ 生より「新支部長は川浦碧 考委員五名の先生がご協議 度は、役員改選の年で、 可決成立致しました。今年 慎重審議の結果、 ました。各担当部長からの を受け集会成立が宣言され 生が選任、 会計監査報告があり、 選考委員長則武穹先 出席状況の報告 原案通り 選 を頂き、

事長伊藤昌石先生にご挨拶 議会議員岩村進次先生、 にお祝いの贈呈後、 した。中日展準大賞受賞者 を緊張の中、ご挨拶されま

先生、理

一宮市教育委員会

ご挨拶を頂き、

閉会となり

▼ 講会日 師場時

公益社団法人 中部日本書道会

集

支部編集部

-宮支部発行

平成

編

支部長岩田澗流先生は、交流会が開催されました。

開催いたしました。恒例の支部書道講 支部集会に引き続いて、 講 |演会を

昌石先生をお迎えして、 会理事長・日 講師には中部日本書

方法」と題し一時間半の講 演をお願いしました。 「三体千字文から得た勉 展会友の伊

終始和やかな雰囲気の中、 で祝宴の幕が上がりました。 教育長中野和雄先生の乾杯

真清田神社権禰

閉会となりました。 宜塚越啓陽様の万歳三唱時は進み、真清田神社権 く活気のあるものに成って バーの下、 来ました。このベストメン 先生方をお迎えする事が出 安藤蘇道先生。 更に書道協会常任理事長に 上史麗先生、 行けたらと望んでおります。 にご協力いただける有能な 長に於いても献身的渾身的 さて三年前、 支部運営が明る 小島瑞月先生。 支部創立六 加えて各部 す の 基

少年に贈ることば展」 されました「次代を担う青 -周年記念行事として実施 澗流先生の目 は、 で皆様と共に、「仲良く」 員各位のご協力を。この をもお与えいただき、 えを切にお ております。 示下さりました。 が前岩田支部長同様、 願い申し上げ かいお力 改

進歩をしてまいりたいと願っ 宮支部という大チームの中 て書教育の大切な姿をご教 動と夢と希望とそして勇気 作業の至る所までのご配慮 まで行き届いた企画準備諸 不安真只中のスタートで 多くのご観覧者の感 会 め

書かれた千字文の一

『かれた千字文の一部も資お父様の伊藤昌山先生が

料として準備され拝見する

ました。

定義として教えていただき

が何となく感じていた事を

藤道 行書は異なること等々私達 は中心と重心が同じですが バラバラになること、楷書 は横画は平行ですが行書は 説いただきました。楷書で草の漢字の法則を熱心に解 と思います。 あるという方は少なくな れたものであるので、 る 残る名蹟も多いことから、 であり、 一研究されました、 「天地玄黄。宇宙洪荒」 楷・行・

頃手に取る法帖が千字文で みごとな韻で歌ったもので までの四言二百五十句の詩 から「謂語助者。焉哉乎也 書を習う私達にとっては日 した字体を学ぶために作ら 千字の異なった文字によ その千字文を先生が長年 千字文はその名のように 一字の重複もなく 続々

と諸名家が筆をとり現在に あります。王羲之の書き残

体 一十八年度 伊藤昌石 先生 一宮スポーツ文化センター 平成二十九年二月五日(日) 字文から 連盟副会長 書 楷・行・草か 道 講 演 得 村 슾 ら定義 た勉 Ŀ を発見 強 史 方 法

麗

(任期2年)

生し進化しているのだと感表現される線の強さと空間表現される線の強さと空間ような綿密な思考の末に誕ような綿密な思考の末に延ような綿密な思考の末に延りました。先生の薄墨から 公益社団法人中部日本書道会 宮支部 部別編成•役割表 平成29·30年度 ※順不同

連盟会長 春 談 支 部 長 Ш 浦 碧 溏 HH 代 茄 監 常 仟 雇百 相 役 村 上 史 村 田 光 柊 (支部展担当) 連盟副会長 麗 (講演会担当) 藤 玄 甫 亀 Ш 雪 鷲 野 看 雲 部次長 鷲 野 紫 篁 翠 戸 (学生展担当) 連盟副会長 小 島 瑞 月 (選抜作品展担当) 中 村 曽 南 武 山 屋 木 竹 葉 吉 田 桃 花 林 大淵 武 (協会事務局長、集会担当) 樹 即 ш

部別	部 長	副部長	委		分 掌	
事業部	吉田美影	髙山紅雪牧 仙岳	河村抱山 桜井 州中村彩香 野田 自山口 竹汀		支部展・集会・講習会・研修会・イベントの企画運営 部長会の資料の作成・議事進行、事業計画・事業報告書の作成 部長会・学生展・作品整理等の会場手配(連盟は経理)	
教 育 部	橋本成良	加 地児 弧長雪		彩 慕 川 本 青 柊 野 越 戸 谷 嘉 恵 菜 苑	学生展(支部・七夕)の企画運営 備品の管理	
庶 務 部	髙 松 秀 翠	橋本佳静	内藤春翠 渡辺湖	月 風	文書の発送 その他、他部に属さない業務に関すること	
経理部 支部 連盟	酒 井 光 華中 村 華 風	太田紫翠溝口純華	栗本珠路 西垣美佐藤紅蘭 森 翠	古 葉	予算・及び決算、収支に関すること 金銭を伴う受付業務、日常の金銭の管理	
会 員 部	横井静嘉	酒 井 淑 婉	春日井栄嘉		会員の管理、会員名簿の作成 各種資料の管理	
編集・広報部	後藤蘇月	長澤美峰	五藤梅艶		支部(本部)報の編集、発行・各行事にかかわる広報に関すること 各種資料の作成応援・名札の管理・芸文協の編集会議と冊子の配布	
記録部	河島紫虹	村 上 桂 崚	小 出 和 香		部長会の議事録の作成 各種事業の記録(出欠含む)、及び写真	
厚生部	中 山 芳 泉	牧 恵清	岩田佳川 梶木光西村松花 山本草	生 雪 松 岡 流 麗	交流会の司会・進行等運営全般。会員の福利厚生に関すること 各種行事の飲食に関する事。 弔事における弔電・供花の手配・本部への連絡	
※ 各部に於いて業務執行上、必要において、他部に協力を求める事が出来る。又、協会員にも依頼する事ができる。						

書に対しても人の生き方

しても短い言葉で核

佐 野桃子先生を偲

N

で

支部相談役 武 山 翠 屋



知ったのはそれからしばら 追求心、こだわりはハンパ ていただいた時でした。 当時の役員会) に同席させ のカバン持ちで小委員会(の初対面は故橋本翠川先生 ある雅号の先生でした。私) 記…… にした人はまづ例外なく女 にしめて先生の名前を耳 くしてからでした。 ではない先生であることを 第一印象です。書に対する !:男性だ!:」ほぼ皆おどろ を受ける。逢ってみたら「え 「もの静かな先生」これが インパクトの びを味わった人は一生退屈「一つのことを追求する喜 摯な姿勢は最後まで変るこ とばです。書を追及する真 しない」先生から戴いたこ リの先生だと思います。

くやしかったです」そんな は笑い話にして一あの時は みになった。そう思えるの の鼻をへし折られた記憶が 話をしたことがあります。 ですが… のちのち先生に あります。今でこそよい励 だね」小生少なからず天狗 め頃桃子先生に作品の批評 そんな時にこにこ笑顔で を受けたことがあります。 武山君にしてはいい作品 かつて小生三十代のはじ

佐 平成二十九年一月二十五日逝去 九十二 本書道会顧問 才

る感心も高まって来てい

するこども達の中にも、

初の字を書く」という催

しにより、学生展に来場

とぼけた笑顔も又忘れられ

「そんな事あったかねー」

られない類のものでした。 何度もこの言葉を口にされ オタク」この言葉がピッタ 正に良寛に心酔した「書道 そうなあの笑顔は他では見 ました。先生の本当に満足 字作品、あれはスゴイ!!」 加茂文化会館での良寛の大 たことがあります。「あの の同意を得られれば強力に できる存在でした。先生と 緒に新潟の良寛史蹟を回っ 何事も先生

にお話しを伺うことがあり亡師橋本翠川先生から時 とはありませんでした。 ました。故伊藤穿石先生、 そんな感慨 わり、 クイズ「先生の作品の最 がありました。 いう記念展となりました。 今年度、 支部展との併催による 例年の賞に記念賞が加 ▼会場 ▼ 会期 会場にも大勢の来場 宮支部学生書道展は 展示数が増える事 第四十五回

にも似た気持ちがします。 終わった―― 磨」してきた仲だ!と! 意識し合いながら「切磋琢 いわば「三羽鳥」お互いに 翠川は生まれ年もほぼ同じ、 佐野桃子先生、そして自分 尾張書道界の一時代が

第 62 第七十 回 回 宮市芸術祭参加 宮 支 部

田 光

柊

▼ 種会会 目場期

工芸、書、写真日本画、洋画、彫刻・立体、

デザイン、

宮市教育委員会

一宮市芸術文化協会

一宮スポーツ文化センター平成二十八年六月九日木~十二日印

展

2016

宮

総

合

美

術

展

▼会場 平成二十八年十一月二十六日出~二十七日旧 一宮スポーツ文化センター

事務局長の関根玉振先生、 池青岑先生の御出品を賜り 企画委員長兼総務部長の大 事長の松永清石先生、 事長の伊藤昌石先生、 開催されました。 本部より賛助として、 六十二回展が 同兼 副理 理

なりました。 白と黒の清澄な空間の場と ました。 一五名の多数の御出品を頂 支部の先生方からは、二 広き会場の各六室は、

鑑賞させて頂いております。 の支部飛躍の希望を抱き、 ら、深い感動を覚え、今後 成度の高き制作に、毎年乍 の日頃の習練を実らせた完 の御出品を頂き、若き皆様 では、五団体と個人六名様 又青年部フューチャーズ 御出品御尽力頂きました

方に、この書面をお借りし 各先生方、青年部御出品の 皆様、そして御多忙の中、 その御指導に携われた先生 て心より御礼申し上げます。

の印刷から始まり、九月下年八月上旬の出品依頼書類の事務処理は、毎 支部集大成の書道展が開催 と配布。そして当日、先生 方の御協力の元、正に一宮 に、搬入搬出の進行表作成 れます。その後十一月中旬役員四名で急ピッチに行わ 印刷配布作業を、支部長と 月初旬は、出品者用書類の 旬迄の出欠返信の整理。 出品者 澤五小木亀加岩犬伊藤 野藤島戸山藤田飼藤 麦梅雪竹雪松澗游暁 玄 郵艶舟葉峰翠流華嶺 古十音順

部門には本会から左記の方々が出品されました。化団体から選抜された方々の展覧会であり、書の当美術展は、一宮市芸術文化協会に所属する文

ございましたが、先生方の される運びとなります。 らぬ御尽力御協力を賜りま が出来、安堵しております 御蔭で無事に幕を閉じる事 又来年度六十三回展も、 本年度も至らぬ点が多々

高澤五小木亀加岩犬伊木野藤島戸山藤田飼藤

高関近後小川神大猪伊順

渡吉山村美林林萩西富武 辺田田田羽 原村田山 月美杏光城村 島 松 栄 潭影華柊開樹月苑花楽屋

鷲 吉 森 村 見 林 服 則 中 田

篁花城麗峰華華穹南苑

部武村代

曽

春

上 神

紫桃隆史恵如稲

山戸藤藤島浦谷塚 紅海芳蘇瑞碧静菖松玄

雪越玉月月濤苑苑峰

申し上げます。 すよう何卒よろしくお願

大変嬉しく思いま

· 会 場 期

一宮スポーツ文化センター平成二十八年十一月十七日ホ~二十日印

74

回

宮

市

美

術

カ頂き、 多く ります。 会場での展 汞

平成二十八年十一月二十六日迁~二十七日旧

支部次長

野道

一宮スポーツ文化センター



重ね、

新鮮味が無くなる

く開催出来ました。 ントも、混雑無く、

回を 楽し イベ

カレンダー

書 きの

懸念の中、今年も、

堂 々

姿に感心させられました。 と筆を動かすこども達の

書道教室に通っていな

展 総出品点数 公募 招待出品 三、六一七点 三、五六三点 四八点

「習ってないけど、こども

いて楽しかった」とか、 した。「初めて筆で字を書 い方々も多く来場されま

に見せたくて来ました」と

・うお

言葉を頂

係

第45回

公益社団法人 中部日本書道会一宮支部

いました。 出品塾の先生方は元よ き、大変感謝してお多くの先生方に御協 ありがとうござ 設営

在 森中近伊亀出 村藤藤山品 隆曽芳暁雪 審村林武伊査 田山藤員 田 山藤 光大翠昌 城南玉嶺峰 柊樹屋石 _ 山林田小則 伊岩木後 一 六田 代島 四杏如春瑞 代島武 藤田戸藤 玄澗竹汀 点華華苑月穹 圃流葉鶯

宮支部関係入賞者

奨励賞

田永

長崎 成秀春日井栄嘉 教育委員会賞 西 垣美 茜 市長賞 佳 Ш 中 酒 井 Ш 芳 光

山 内 山 泉 華 抱 山丸牧平橋高小大岩 島 橋 田 井野松本桑

千瑞豊佳愛 華渓展 尋葉泉静降扇煙穂 脇山松前鳩永酒川梅 田路永野山田井本村 静溪樹煌張照青真 波竹月風華羽苑柊琵

美術展賞 谷 藤 村辺出 清翠嘉三虹舟紅泰翠峻恵禮景楫華郷風

渡山内佐倉神尾井 辺田藤合橋田関上 湖紅春華澄鴻明嘉 風照翠婉雨都美蓮歩

山松戸五北川内飯青

第 44

口

お ŋ もの感謝祭一 学生 書道展を終え 宮七夕まつり

宮書道連盟会長 Ш 碧 濤

階である企画準備作業の手 数多く見られ、 明るく笑顔のご家族連れが 協力ご対応をもちまして、 催両日でした。会場ではイ 点数でした。が、ご出品ご 出来ない細部まで行き届い 順段取り等の目で見る事が らず天候に恵まれ安堵の開 道展は昨年より減少の出品 た配慮を下さった執行部、 や委員の方々の献身的なご 各位、ご後援ご協賛を賜り 協力をいただきました先生 て厚く御礼を申し上げます。 ました関係各位に、 に終了する事が出来ました。 、ントや賞状賞品引換え係 今年の七夕まつり学生書 雨明け間近にもかかわ 開催を迎える前段 無事盛況裡 先ず以っ ぞれの役員の先生方のお蔭

教育部長はじめそれ | 希望と未来ある児童や生徒 げていかなければ…。夢と ら実施の団扇書きイベント。 と衷心より感謝を申し上げ を考慮いただき、今後に繋 原点というべき最初の意図 くのが主旨の作品展である て先生の作品を認識して頂 きます。ご父兄様にも読め き出し一字を書いていただ 前と選抜作品展の作品の書 のこどもさんに先生のお名 から実施のクイズは、 その参加権である一昨年前 いて行けるのか?七年前か 後の発展の道をどう切り開 て下さったレールを基に今 会である為に、 た」と感じていただく展覧 ます。有難うございました。 ご出品の皆さんに「良かっ 先達が築い 来場

> るべきと… さんの為の書道展行事で有

改めて痛感いたしました。

第 23 回

披作

宮書道連盟主催(支部後援)

第四十四回展出品数

▼会場

宮スポーツ文化センター

髙 近木 藤

芳

木曽

隆

▼会期

金賞 特選 個人賞 特別出品 展示作品 総出品数 三、六四三点 、一一四点 、五〇〇点 六五四点 四四六点 四三点

一宮スポーツ文化センター

成二十八年七月十六日出~十七日日



大 小 見 塚 島 神

開

先生方を選抜させていただ な小作品の展覧会でした。 きました。楽しくユニーク 夕学生書道展」にご出品の 員の先生及び、併催の した。当連盟を代表する役 回選抜作品展が開催されま まつりに協賛し、 (出品者) おりもの感謝祭一宮七夕 第二十三

吉村川渡 田田浦辺

吉村鷲田岩山富

田上野代間田栄

花 柊 濤 潭 城

伊 伊 林 武 鷲 藤 本 大 翠 看 嶺圃樹屋 雲 加中則木亀 武戸山竹雪 藤 村 松 曽 翠 南 穹 葉

> 嶺 蘇 静

又 藤 松蘇

後横

月

安

井塚 菖 瑞恵 桃 光 碧 月

嘉 苑 月峰

河 酒 美濃羽城

.) 島紫

道虹華

... 井光

▼作品サイズ 色紙・短冊・升色紙・葉書などの小作品 平成二十八年七月十六日出~十七日旧 展 宮 松 部田田 松 舟 清 樹 白 麦 紅 花 幹 虹 風 藤 Ш 木 野 中

Ш 彩 仙 如 石

富 酒 酒 小栗川可加大牛岩 犬 石 阿 田崎飼 本 本 児 西 Ш 井 井 島 島 青長遊影 淑 香 祥 珠 美翠游裕 紅 風 路 柊 舟 慕 泉 風 婉 望 華 坂五小國河勝 岡太岩岩伊荒八真牧林田小 島 海崎 田 田 谷 松 井 藤 出 村 田 春華嘉秀香梅和英抱芝啓翠風惠翠泉艷香華山香雪 紫清佳美白彩翠 翠竹川泉扇花芳 岳

辺 田

充実した旅となりました。 所も時間を忘れて楽しめた、 ギリギリでバスへ。どの場 に時間がかかり、



平 成 28 年 支 中 濃の 教育部長 旅 吉 旅 田 美

▼日時 中濃(郡上八幡・美濃) 平成二十八年十月三十日仕

作など、日本の書の美を追 名の調和 仮名の単体表現、漢字と仮 回の旅の目玉となりました。 と旅行日が運良く合い、今 念美術館」その秋季展初日 戸町にある「日比野五鳳記 を所蔵されている岐阜県神 日比野五鳳先生の代表作品 書壇の最高位にあられた故 求し続けられた作品は 和の三筆」現代仮名 「読める書」の制 学館」 場所にある和歌をテーマと の発見があり、大満足。 した野外博物館。「和歌文 がありませんでした。

だき、次の目的地「古今伝 しなければわからない多く はりスゴイ。実物を間近に 授の里フィールドミュージ くら観ていても飽きること アム」へ移動。自然豊かな お昼は「積翠園」でいた 影 Ŋ らしさを満喫できました。 心地良い場所でした。 ぶらぶら。何より水の音が へ立ち寄り、古い街並みを 散策。名水百選「宗祇水」 観を堪能でき、自然の素晴 策。日本古来の和歌の世界 にした「東氏館跡庭園」散 化品を鑑賞。和歌をテーマ など、歴史的価値のある文 メートルの展示物は圧巻。 代までの歴史を一度に学べ、 読まれた和歌を記した短冊 る名家の出土品や、天皇が 東氏記念館」では歴史あ 一十六歌仙にちなんだ、 日も傾きかけ、 続いて「郡上八幡」自由

集合時間 澤 晴 香 入 選

第 改組新 第3回 おめでとうございます ご入選・ご入賞 33 回 林 読 売 H 書 法

展

樹

展

逸 横山國 井田島 静杏英 嘉華華

秀作賞 第 68 回 村 毎 日書道 上 史 展 麗

法展入賞者に、 詫びして掲載させてい がございましたので、 前号、第三十 だきます。 《お詫び》 記載もれ おれ

島 瑞 読売俊英賞

万葉集から現

翠照華崚霄葉我萩華静花 渡山 村 牧馬平橋野 三輪田香 辺口瀬 浦 場松本田 景恵清豊成佳 湖竹紫 風汀苑苑波清恵泉良

渡山森村宮牧堀古服橋西

紅雪桂翠瑞無白稲佳松

上代野内川部本村

大

情象枕冷侯見倉在明中治公方 了两下折 子門中梅佐

時於聲指獨向聽成党其本個之獨弘宗

申 は引發於風器傷窓之相而多舊先为将

準

大

賞

野

田

佳

高一社學在的方 華南溪杨豐屯居居名名院喝花点都 五写李重客排 發松子弦降将本面於至 好意是法障性遠好強圍我家學多成



名古屋市民ギャラリー栄 電気文化会館東・西ギャラリー 愛知県美術館ギャラリー 場・会

平成28年4月 1日

六月二十一日冰~二十六日印六月十四日火~十九日印 一科 六月十四日火~十九日(日 二科

益々のご活躍をお祈りいたします。 おめでとうございます。 支部からは左記の方々が受賞されました。

花

83

粉的公

準

大

賞

安

藤

静

多多格人

大

掛、红塵花飲者的助侍尚是位前子於雅多六散 少四五八年一京京 打化椒珍黄 容像 要在四季 結婚堂 病物は 全事結合な粉を此たるな無量具保董即手 天海秦裡花飲日第內好有是人學一以相往揚一不情

賞 尾 中 杉

賞 北 村 虹

準

大

賞

史 紅 修

準特選 佐佐小後後小遠浅特山木推 $\hat{}$ 山村平林林野谷 渡松内谷 飯安阿 髙 部 科 邉 居 藤 本 岩 藤 藤 田口瀬野 田 取藤藤林藤藤平座野選 田村薦 藤 塚 萌 玉 春 義 礼 珠翠翠 如紫翠翠華江桂翠 圭 光 白 揺 竹華翠仙雪川光 鳳穂昴祥 苑 彩 眉 静 泉 凜 揚 織蘭 堂 翠 翠

岩岩井伊井秀 小笠原 渡 脇 山山安森 星 藤 袴 野 竹 志 後 後 加 畄 大 大 木田田 村 崎 津 村田本藤 内逸 邉 田 路口田 Ш 知 井 藤 藤 田 野 Ш 村 木 \mathbb{H} 枝井 多恵子 由 翠 梢 朝 朝 泉 花 華 隆 照葉 佳 啓 翠 翠紅翠 澄 美子 香 萌 霞 雅 香 穗 翠 景園道苑光翠光虹樹 峡 遠 雪 翠 景月萌彩虹舟 竹 華 子

伊 甲斐野美津枝 倉 鵜 辺 田橋飼 神 舟 澄水薪 楫 苑雨影水

四〇〇円

平原馬中 久 山山森 舟 中中 柴 栗 櫛 北川川 辺田本 岡川輪橋松 場村 島 島田田住田村本浦藤 川村坂 双沙峻和隆豊香桜紅昭紅怜萌珠 剣 月 翠

華 翠 花 邑 川舟 玉 翠 蓉 柊 風 翠 ······· 立(7 笛 ılΩ 注 鞀 4

支部展

• 学

展

の 展

予

口

支

部 生

翠

一科賞

竹

林

一、 会 展 覧 会 平成二十九年十一月二十五日出~二十六日

場 一宮スポーツ文化センター 回 支部

一、出品締切一、出品資格 覧 会 平成二十九年十一月二十五日出~二十六日田 場 幼児、小学生、 宮スポーツ文化センター 学 中学生、高校生 生 書 道 展

一、一、会 展

九月三十日出 公益社団法人中部日本書道会一 市 術 化 協 宮 支部

編集広報部長

後

藤

蘇

月

主

催

	平成28	件度 —	呂文	114 114
	4/7	! 入の	部	
	科	目	決算額	予 算 額
款	項	目	(円)	(円)
1 会費収入	1 会費収入			
		1評議員会費	346, 500	357, 000
		2正会員会費	756, 000	756, 000
		3準会員会費	130,000	127, 500
2 事業収入	1事業収入			
		1支部展収入	860,000	920, 000
		2 支部学生展収入	1, 353, 400	1, 525, 000
		3 支部選抜展収入	0	0
		4 支部研修会収入	1, 338, 500	860, 000
		5 支部講演会収入	0	0
		6 支部祝賀会収入	1,020,500	1, 190, 000
3雑収入	1雑収入			
		1受 取 利 息	5	0
		2 雑 収 入	97, 000	95, 000
	2 本部より振替金	1 愛の募金委託金	100,000	
4 投資活動収入	1 特定資産取崩			
		1 支部積立金取崩		
		前年度より繰越	629, 285	70,000

又不	异拟	一 至	平成29年	3月31日
	支	出の	部	
	科	目	決算額	予 算 額
款	項	目	(円)	(円)
1管 理費	1管 理 費			
		1支部事務所費	808, 041	1,061,500
2事業費	1 書道振興事業費			
		1講演会費	111, 230	131,000
		2講習会費	0	0
		3研究会費	0	0
		4研修会費	1, 244, 172	876,000
		5選抜展費	0	0
		6学生展費	1, 748, 508	1,890,000
		7支部展費	225, 763	332,000
		8色紙展費	0	0
		9 書道振興事業費	350, 000	350,000
		10支部祝賀会費	1,079,500	1, 190, 000
	2 本部より振替金	1 愛の募金委託金	100,000	0
3 投資活動支出	1 特定資産取得支出			
		1 支部紀念事業積立金	140, 000	70,000
		次年度へ繰越	823, 976	0
支	出台	計	6, 631, 190	5, 900, 500

村 田

編 後 記

問 与

佐野桃子先生佐々清香先生

御主人様

りますので、一層のご指導 力を合わせて頑張ってまい お迎えして、 1協力をお願い致します。 新支部長川浦碧濤先生を 新役員一同、

収 合 計 げます。 を表し、ご報告申し した。心から哀悼の の方々がご逝去され (逝去順) 評議員 坂 準会員 高木溪川 議員戸松紅翠先生 白虹先生 御母堂様 先生

上意ま記

本号発行までに左 計

(再入会)

6, 631, 190 5, 900, 500

清丹山 丸 堀 野 西 佐々木 男 田 田 末 裏 田 田 淑 喜 妻 妻 子 佐 翠 子 子 異 勇 多 惠子 錬碧沙千 翠 翠 峡萌哲穂 平丹高櫛加奥鵜 木 村 飼 野 羽 田納 本 美 翠晴華恵豊 翠 水 紅 奏草紀彩菜園翠樹想影

入会された方々をご紹介し 平成二十八年度、 奥岩伊飯 藤塚 珠 飯田 支部に

新入会員平成28年度 紹 介